

平成29年度 漁港漁場関係工事積算基準 正誤表 (8 / 15)

掲載頁	誤	正	コメント																																																																						
2章1節 拘束費 2-1-5	<p>2-6-1 拘束費計上の対象 工事の施工に際し、作業の種類や現場条件に応じて拘束が発生する場合は、拘束費を計上する。 ここでいう拘束とは、作業船舶・機械の主目的作業の前後および途中で副次的に発生する付帯作業、または発注者・請負者双方の責によらず発生する待機状態をいい、主目的の施工歩掛の代価表の供用日数（「2-5-1 船舶の供用日数」参照）や、回航・えい航中の供用日数に含まれない状態をいう。</p> <p>2) 現場条件による拘束 発注者・請負者双方の責によらず作業船の待機状態が発生する場合は、現場条件に応じて必要な拘束費を計上する。拘束費計上の対象となる現場条件の例を以下に示す。 ① 施工現場への出入り時期の制限に伴う拘束 ② 潮位変化に伴う拘束 ③ 継続施工ができない場合に発生する拘束 ④ その他、上記に準ずる場合</p>	<p>2-6-1 拘束費計上の対象 工事の施工に際し、作業の種類や現場条件に応じて拘束が発生する場合は、拘束費を計上する。 ここでいう拘束とは、作業船舶・機械の主目的作業の前後および途中で副次的に発生する付帯作業、または発注者・受注者双方の責によらず発生する待機状態をいい、主目的の施工歩掛の代価表の供用日数（「2-5-1 船舶の供用日数」参照）や、回航・えい航中の供用日数に含まれない状態をいう。</p> <p>2) 現場条件による拘束 発注者・受注者双方の責によらず作業船の待機状態が発生する場合は、現場条件に応じて必要な拘束費を計上する。拘束費計上の対象となる現場条件の例を以下に示す。 ① 施工現場への出入り時期の制限に伴う拘束 ② 潮位変化に伴う拘束 ③ 継続施工ができない場合に発生する拘束 ④ その他、上記に準ずる場合</p>	字句の修正 字句の修正																																																																						
3章2節 海上地盤改良工 3-2-14	<p>2-2-3 代価表作成手順 [床堀費の積算]</p> <p>2-2-4</p> <p>床掘水深、土厚、土量 工期、運転時間、施工数量 供用係数 土捨場の受入土量の制約等 作業船在港状況</p> <p>→ グラブ浚渫船の規格選定 → ①グラブ浚渫船(普通地盤用)の規格</p> <p>↑</p> <p>経済比較</p> <p>↓</p>	<p>2-2-3 代価表作成手順 [床堀費の積算]</p> <p>2-2-4</p> <p>床掘水深、土厚、土量 工期、運転時間、施工数量 供用係数 土捨場の受入土量の制約等 作業船在港状況</p> <p>→ グラブ浚渫船の規格選定 → ①グラブ浚渫船(普通地盤用)の規格</p> <p>↑</p> <p>経済比較</p> <p>↓</p>	字句の修正																																																																						
3章2節 海上地盤改良工 3-2-17	<p>2-3-4 代価表作成手順 [床堀費の積算]</p> <p>2-3-5</p> <p>・土質、N値 ・床掘水深 ・施工数量、工期、運転時間 ・供用係数、土捨場の受入土量の制約等 ・作業船在港状況</p> <p>→ グラブ浚渫船(硬土盤用)の規格選定 → ①グラブ浚渫船(硬土盤用)の規格</p> <p>↑</p> <p>経済比較</p> <p>↓</p>	<p>2-3-4 代価表作成手順 [床堀費の積算]</p> <p>2-3-5</p> <p>・土質、N値 ・床掘水深 ・施工数量、工期、運転時間 ・供用係数、土捨場の受入土量の制約等 ・作業船在港状況</p> <p>→ グラブ浚渫船(硬土盤用)の規格選定 → ①グラブ浚渫船(硬土盤用)の規格</p> <p>↑</p> <p>経済比較</p> <p>↓</p>	字句の修正																																																																						
3章8節 消波工 3-8-9	<p>2-2-4 作業船・機械の組合せ 2-2-4-1 陸上作業</p> <table border="1" data-bbox="388 1255 1139 1675"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ブロック質量</th> <th colspan="3">転置、運搬、据付（陸上連携方式、陸海一貫方式）、横持ち</th> </tr> <tr> <th>ラフテレーンクレーン</th> <th>クローラクレーン</th> <th>トラックまたはトレー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.5t以下</td> <td>(油) 25 t吊</td> <td rowspan="4">-</td> <td>11t積</td> </tr> <tr> <td>4.5t超え7.5t〃</td> <td>(〃) 35 〃</td> <td>11 〃</td> </tr> <tr> <td>7.5t〃12.5t〃</td> <td>(〃) 50 〃</td> <td>25 〃</td> </tr> <tr> <td>12.5t〃22.0t〃</td> <td>(〃) 50 〃</td> <td>25 〃</td> </tr> <tr> <td>22.0t〃31.0t〃</td> <td rowspan="5">-</td> <td>(油) 100 t吊</td> <td>32 〃</td> </tr> <tr> <td>31.0t〃37.5t〃</td> <td>(〃) 150 〃</td> <td>40 〃</td> </tr> <tr> <td>37.5t〃50.0t〃</td> <td rowspan="2">(〃) 200 〃</td> <td>50 〃</td> </tr> <tr> <td>50.0t〃70.0t〃</td> <td>60または70 〃</td> </tr> <tr> <td>70.0t〃100.0t〃</td> <td></td> <td>現場条件による</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 現場条件により大型規格のものを使用することができる。 2. 同一工事において、製作・据付を一連して施工する場合は、製作転置クレーンと比較し、大型規格のクレーンを使用する。 3. 現場条件によりラフテレーンクレーンの使用が困難な場合は、クローラクレーンを使用することができる。なお、その場合の規格はブロック質量・作業半径等を考慮し、選定する。</p>	ブロック質量	転置、運搬、据付（陸上連携方式、陸海一貫方式）、横持ち			ラフテレーンクレーン	クローラクレーン	トラックまたはトレー	4.5t以下	(油) 25 t吊	-	11t積	4.5t超え7.5t〃	(〃) 35 〃	11 〃	7.5t〃12.5t〃	(〃) 50 〃	25 〃	12.5t〃22.0t〃	(〃) 50 〃	25 〃	22.0t〃31.0t〃	-	(油) 100 t吊	32 〃	31.0t〃37.5t〃	(〃) 150 〃	40 〃	37.5t〃50.0t〃	(〃) 200 〃	50 〃	50.0t〃70.0t〃	60または70 〃	70.0t〃100.0t〃		現場条件による	<p>2-2-4 作業船・機械の組合せ 2-2-4-1 陸上作業</p> <table border="1" data-bbox="1576 1255 2326 1675"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ブロック質量</th> <th colspan="3">転置、運搬、据付（陸上連携方式、陸海一貫方式）、横持ち</th> </tr> <tr> <th>ラフテレーンクレーン</th> <th>クローラクレーン</th> <th>トラックまたはトレー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.5t以下</td> <td>(油) 25 t吊</td> <td rowspan="4">-</td> <td>11t積</td> </tr> <tr> <td>4.5t超え7.5t〃</td> <td>(〃) 35 〃</td> <td>11 〃</td> </tr> <tr> <td>7.5t〃12.5t〃</td> <td>(〃) 50 〃</td> <td>25 〃</td> </tr> <tr> <td>12.5t〃22.0t〃</td> <td>(〃) 50 〃</td> <td>25 〃</td> </tr> <tr> <td>22.0t〃31.0t〃</td> <td rowspan="5">-</td> <td>(油) 100 t吊</td> <td>32 〃</td> </tr> <tr> <td>31.0t〃37.5t〃</td> <td>(〃) 150 〃</td> <td>40 〃</td> </tr> <tr> <td>37.5t〃50.0t〃</td> <td rowspan="2">(〃) 200 〃</td> <td>50 〃</td> </tr> <tr> <td>50.0t〃70.0t〃</td> <td>60または70 〃</td> </tr> <tr> <td>70.0t〃100.0t〃</td> <td></td> <td>現場条件による</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 現場条件により大型規格のものを使用することができる。 2. 同一工事において、製作・据付を一連して施工する場合は、製作転置クレーンと比較し、大型規格のクレーンを使用する。 3. 現場条件によりラフテレーンクレーンの使用が困難な場合は、クローラクレーンを使用することができる。なお、その場合の規格はブロック質量・作業半径等を考慮し、選定する。</p>	ブロック質量	転置、運搬、据付（陸上連携方式、陸海一貫方式）、横持ち			ラフテレーンクレーン	クローラクレーン	トラックまたはトレー	4.5t以下	(油) 25 t吊	-	11t積	4.5t超え7.5t〃	(〃) 35 〃	11 〃	7.5t〃12.5t〃	(〃) 50 〃	25 〃	12.5t〃22.0t〃	(〃) 50 〃	25 〃	22.0t〃31.0t〃	-	(油) 100 t吊	32 〃	31.0t〃37.5t〃	(〃) 150 〃	40 〃	37.5t〃50.0t〃	(〃) 200 〃	50 〃	50.0t〃70.0t〃	60または70 〃	70.0t〃100.0t〃		現場条件による	字句の修正
ブロック質量	転置、運搬、据付（陸上連携方式、陸海一貫方式）、横持ち																																																																								
	ラフテレーンクレーン	クローラクレーン	トラックまたはトレー																																																																						
4.5t以下	(油) 25 t吊	-	11t積																																																																						
4.5t超え7.5t〃	(〃) 35 〃		11 〃																																																																						
7.5t〃12.5t〃	(〃) 50 〃		25 〃																																																																						
12.5t〃22.0t〃	(〃) 50 〃		25 〃																																																																						
22.0t〃31.0t〃	-	(油) 100 t吊	32 〃																																																																						
31.0t〃37.5t〃		(〃) 150 〃	40 〃																																																																						
37.5t〃50.0t〃		(〃) 200 〃	50 〃																																																																						
50.0t〃70.0t〃			60または70 〃																																																																						
70.0t〃100.0t〃			現場条件による																																																																						
ブロック質量	転置、運搬、据付（陸上連携方式、陸海一貫方式）、横持ち																																																																								
	ラフテレーンクレーン	クローラクレーン	トラックまたはトレー																																																																						
4.5t以下	(油) 25 t吊	-	11t積																																																																						
4.5t超え7.5t〃	(〃) 35 〃		11 〃																																																																						
7.5t〃12.5t〃	(〃) 50 〃		25 〃																																																																						
12.5t〃22.0t〃	(〃) 50 〃		25 〃																																																																						
22.0t〃31.0t〃	-	(油) 100 t吊	32 〃																																																																						
31.0t〃37.5t〃		(〃) 150 〃	40 〃																																																																						
37.5t〃50.0t〃		(〃) 200 〃	50 〃																																																																						
50.0t〃70.0t〃			60または70 〃																																																																						
70.0t〃100.0t〃			現場条件による																																																																						

平成29年度 漁港漁場関係工事積算基準 正誤表 (8/15)

掲載頁	誤	正	コメント																																																																
<p>3章4節 本體工 場所打式 3-4.3- (1)</p>	<p>4. 施工歩掛 1) 代価表 (1) 岩盤基面整正 10㎡当り</p> <table border="1" data-bbox="424 401 1267 814"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th rowspan="2">形状寸法</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="2">数量</th> <th rowspan="2">摘要</th> </tr> <tr> <th>軟質</th> <th>中質 硬質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>潜水士船 運転</td> <td>D180PS型 3～5t吊</td> <td>日</td> <td>1.00</td> <td>1.50</td> <td>就業8H</td> </tr> <tr> <td>さく岩機</td> <td>ハンドドリル15kg</td> <td>〃</td> <td>0.50</td> <td>0.75</td> <td></td> </tr> <tr> <td>空気圧縮機</td> <td>5m³/min</td> <td>〃</td> <td>0.70</td> <td>1.05</td> <td></td> </tr> <tr> <td>雑材料</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	形状寸法	単位	数量		摘要	軟質	中質 硬質	潜水士船 運転	D180PS型 3～5t吊	日	1.00	1.50	就業8H	さく岩機	ハンドドリル15kg	〃	0.50	0.75		空気圧縮機	5m ³ /min	〃	0.70	1.05		雑材料						<p>4. 施工歩掛 1) 代価表 (1) 岩盤基面整正 10㎡当り</p> <table border="1" data-bbox="1608 401 2451 814"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th rowspan="2">形状寸法</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="2">数量</th> <th rowspan="2">摘要</th> </tr> <tr> <th>軟質</th> <th>中質 硬質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>潜水士船 運転</td> <td>D180PS型 3～5t吊</td> <td>日</td> <td>1.00</td> <td>1.50</td> <td>就業8H</td> </tr> <tr> <td>さく岩機</td> <td>ハンドドリル20kg</td> <td>〃</td> <td>0.50</td> <td>0.75</td> <td></td> </tr> <tr> <td>空気圧縮機</td> <td>5m³/min</td> <td>〃</td> <td>0.70</td> <td>1.05</td> <td></td> </tr> <tr> <td>雑材料</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	形状寸法	単位	数量		摘要	軟質	中質 硬質	潜水士船 運転	D180PS型 3～5t吊	日	1.00	1.50	就業8H	さく岩機	ハンドドリル20kg	〃	0.50	0.75		空気圧縮機	5m ³ /min	〃	0.70	1.05		雑材料						<p>字句の修正</p>
名称	形状寸法				単位	数量		摘要																																																											
		軟質	中質 硬質																																																																
潜水士船 運転	D180PS型 3～5t吊	日	1.00	1.50	就業8H																																																														
さく岩機	ハンドドリル15kg	〃	0.50	0.75																																																															
空気圧縮機	5m ³ /min	〃	0.70	1.05																																																															
雑材料																																																																			
名称	形状寸法	単位	数量		摘要																																																														
			軟質	中質 硬質																																																															
潜水士船 運転	D180PS型 3～5t吊	日	1.00	1.50	就業8H																																																														
さく岩機	ハンドドリル20kg	〃	0.50	0.75																																																															
空気圧縮機	5m ³ /min	〃	0.70	1.05																																																															
雑材料																																																																			
<p>3章16節 3-16- (3)</p>	<p>2-4 組立着定基質部材組立 1) 適用範囲 本項は、コンクリート製の組立着定基質の部材を組立する工事に適用し、ボルト等で締付けする最大部材組立高さが2.5m以下を適用範囲とし、最大部材組立高さが2.5mを超える場合は、「15節 魚礁工 2. 魚礁製作工 2-2 組立魚礁製作」を適用する。 なお、主な部材の材質が鋼製および化学系（FRP）部材の組立は、別途考慮して積算する。 2) 施工歩掛 (1) クレーン運転日数の歩掛数量算定 $M_1 = 0.038 \times N + 0.79$ (小数2位四捨五入) M_1 : クレーン運転日数 (日/10基) <u>N : 締付箇所数</u> ※締付け箇所は、ボルト等による締付け箇所数を採用する。 (2) 職種別労務人数の歩掛数量算定 $Y_{1\sim3} = (0.34 \times N + 2.4) \times E_1$ (小数2位四捨五入) $Y_{1\sim3}$: 職種別労務人数 (人/10基) <u>N : 締付箇所数</u> ※締付け箇所は、ボルト等による締付け箇所数を採用する。 E_1 : 職種別労務割合</p>	<p>2-4 組立着定基質部材組立 1) 適用範囲 本項は、コンクリート製の組立着定基質の部材を組立する工事に適用し、ボルト等で締付けする最大部材組立高さが2.5m以下を適用範囲とし、最大部材組立高さが2.5mを超える場合は、「15節 魚礁工 2. 魚礁製作工 2-2 組立魚礁製作」を適用する。 なお、主な部材の材質が鋼製および化学系（FRP）部材の組立は、別途考慮して積算する。 2) 施工歩掛 (1) クレーン運転日数の歩掛数量算定 $M_1 = 0.038 \times N + 0.79$ (小数2位四捨五入) M_1 : クレーン運転日数 (日/10基) <u>N : 締付箇所数 (箇所/基)</u> ※締付け箇所は、ボルト等による締付け箇所数を採用する。 (2) 職種別労務人数の歩掛数量算定 $Y_{1\sim3} = (0.34 \times N + 2.4) \times E_1$ (小数2位四捨五入) $Y_{1\sim3}$: 職種別労務人数 (人/10基) <u>N : 締付箇所数 (箇所/基)</u> ※締付け箇所は、ボルト等による締付け箇所数を採用する。 E_1 : 職種別労務割合</p>	<p>字句の修正 字句の修正</p>																																																																